

## 受験奮闘記～都立小川高校合格～

## 「ボクが学んだこと”やればできる“短期練習法」 Y.M.

私は石川塾に年長から通っています。石川塾に入塾したきっかけは地元新聞紙の広告を見て、体験し、石川先生の人柄や丁寧なカリキュラムに魅力を感じ、入塾しました。

小学校時代は朗読暗唱、百マス計算、足し算、引き算、漢字の読み書きなどを学習しました。今になって感じるのですが、朗読暗唱の題材は中学校の授業で扱うものや、都立高校入試問題の題材となるものがあり、親近感を持つことができました。僕は親近感というのは学習するにあたって、とても大切だと思います。また、朗読暗唱を通して、暗記力や暗唱能力が向上しました。とても役に立っています。また、百マス計算で計算のスピードも向上しました。これらは石川塾ならではのカリキュラムであり、良さだと感じています。

中学生になり、定期テストと受験勉強をしました。しかし、部活と生徒会をしていたので、定期テストをこなすことで精一杯でした。正直、受験勉強は11月半ば位にはじめました。本格的に勉強したのは、1月の下旬頃でした。遅すぎました。また、僕は2学期に休むことが多かったので、内申点が一学期より下がり、当日点を取ることが求められました。夏休みから受験勉強を始める人が多く、学校の先生も夏休みで半分決まると言っていたのですが、行動に移せませんでした。明日やろうで済ませてしまっていたのです。11月半ばごろに過去問を解きはじめて、出来が悪すぎて、これはやばいと思いそこからはじめました。僕は国語は80、90点は取れていたのですが、国語は自信がありました。数学は最初は40、50点しか取れていなく、英語は50点行けば良い方という具合で、理社は20点を取ること多々ありました。2月21日の入試日まで時間がなかったので、絞って勉強しました。

国語には自信があったので、過去問を2周した程度で終わらせました。数学は苦手で、自信がなかったので、数学に時間をかけました。具体的には大問1の計算問題と作図を確実に取れるように何回も練習しました。また、大問2と4に証明問題があり、高得点を狙うためには必ず取りたい問題だったので、時間をかけました。証明問題の解答を何回も書いて覚えるぐらいまで練習しました。正直、めっちゃ大変でした。この練習法を提案してくれたのは、石川先生で、今になってはとても感謝しています。また、大問3も比較的取りやすい問題だったので、過去問を3～4周しました。これらの練習をして数学は70、80点を取るぐらいにまで上がりました。

英語は大問が4まであり、大問3と4が長文読解なのですが、大問4まで行けずに時間が終わってしまっていました。そのため、すばやく長文を読む練習として、英文を全文写して、日本語訳を書いて熟語表現を馴染めさせたり、素早く主語、動詞いわゆるSとVをとって英文の意味を理解するという練習をしました。この練習も石川先生の提案でした。やはり、できるようになるためにはがむしゃらに、覚えさせる(馴染めさせる)ことが大切だなと感じました。また、大問2に英作文問題があり、3文の英作文をつくるという問題なのですが、最初は何を書いたらいいのかまったくわからず、解答すらできていませんでした。そこで、石川先生が解答をまるまる覚えるのが一番早いということをアドバイスしてくれて、過去問の解答をすべて覚えるためにひたすら書きました。文の構成をどのようにして作ったらいいのかなどかなり効果があり、この練習の甲斐もあってか、英作文も書けるようになりました。とりあえず書いてみるということが大切だなと感じました。これらをして、70、80点まで上がりました。

理科と社会は大の苦手で、10点代を取ることもありました。しかし、本番まで時間がなかったので、やるしかないわけだったので、とにかく過去問を解きました。単語の復習とかはあまりせず、とりあえず問題の傾向を感じ取ろうと過去問を解きました。あまり、仕上げることはできませんでしたが、それでも最初と比べれば40点ほど理科、社会両方上がりました。

短期間でここまで上がるのかと自信にもつながり、石川先生のご尽力もあり、合格することができました。やればできるのだとわかりました。何よりも、受かったことよりもこれだけのいい経験ができたことが嬉しかったのを昨日のことに覚えています。受験勉強期間は僕の場合は学校に行きませんでした。時間がなく、とにかく受かることを考えていたので行きませんでした。ただ、卒業した今考えれば、行っておけばよかったなという後悔があります。もし、今後高校受験をする人がこれを読んでいるのならば、僕のようにならないためにも今のうちから頑張ってください。部活も青春も充実して、楽しい毎日を送ってください。お読みいただきありがとうございます。

(毎月1回第2日曜)石川塾 日本の歴史を知る朗読会(無料です) ☎042-710-5768

第11回:4月14日(日) 石川塾 10:00～11:30

テキスト:江藤淳「閉ざされた言語空間～占領軍の検閲と戦後日本～」

第一部 アメリカは日本での検閲をいかに準備していたか

第二部 アメリカは日本での検閲をいかに実行したか (文春文庫¥740) 各人購入下さい

(朗読者:石川塾長/林史雄弁護士/理科教師:縄文・リー/スタッフ:渡邊光樹/鈴木天羅/飯田広子ほか)

